

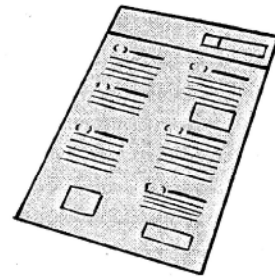
## 特集 「基礎学力定着」 への一層の取組を

～ 全国学力・学習状況調査を契機に～

### ■ 学力の状況： 岐阜県の成果と課題

本年4月に実施された、全国学力・学習状況調査における全国や都道府県の結果が公表されました。4年ぶりの全員参加、そして、過去の調査より明らかになった課題についての改善状況を確認する出題もなされました。岐阜県全体の学力状況の主なものは次のとおりです。

◇小6では、国語と算数ともに「知識・技能」の定着を図ることやそれらを活用することについて引き続き課題があると考えられますが、A問題（知識）において、全国の平均正答数の半分を下回る児童の割合が全国的に見ても減少傾向にあることや、昨年度と比較して全国の平均正答率との差が縮まったことなどから、各小学校における基礎学力向上に向けた指導改善の取組の成果が表れつつあると思われま



す。中3では、国語と数学ともにA（知識）問題とB（活用）問題のどちらも、全国的な観点から平均正答率を見ると指導の効果が上がりつつあると思われま

◆一方、課題もあります。3分の2近い児童生徒が正答できなかった設問が、小・中学校ともに少なからずあります。【小国：4問、小算：2問、中国：なし、中数：10問】また、下学年や小学校で履修している内容を問う設問の正答率が50%に満たないものもあります。こうした正答率が低い設問や過去4回の調査の結果などから、学力の全体的な課題として、主に次のようなことが考えられます。

- 【小学校国語】 目的に応じて情報を整理・選択して、自分の考えを明らかにすること
- 【小学校算数】 乗法や除法の意味を理解し、二つの数量の関係や比較について理由や根拠を明らかにして判断すること
- 【中学校国語】 新聞記事などの説明的な文章について、構成や展開、表現の特徴などに注意して読むこと
- 【中学校数学】 関数の意味を理解し、数値の変化を適切に捉えて理由や根拠を明らかにして数学的な表現で説明すること

◆児童（生徒）質問紙の結果からは、多くの児童生徒が勉強の大切さを理解し、家庭学習に取り組む時間が増加傾向にある一方で、「勉強（国語・算数・数学・英語）が好き」と答えた児童生徒が半数程度にとどまるという状況もあります。また、分からないことがあっても「そのままにしておく」と回答した児童生徒が少なからずおり【小：6.2% 中：6.8%】、学校からの支援が求められます。

【後日、今回の調査結果を踏まえた「岐阜県版指導改善のポイント」が作成・送付されます。詳細な分析結果を確認いただくとともに、授業改善等に是非ご活用願います。】

### ■ 求められる「基礎学力定着」

基礎学力の定着については、これまでも重要かつ喫緊の教育課題でしたが、次の3つの観点から改め

てその必要性を考えてみたいと思います。

- ・ いわゆる「知識基盤社会」と言われる今の社会では、情報通信機器の拡充も相まって基礎的・基本的な知識・技能が不可欠です。加えて、「学ぶ意欲」や「思考力・判断力・表現力」などを含めた幅広い学力を育てることが強く求められています。
- ・ 成人はもとより、中学校卒業後に就労する職業を問わず、種々の資格や免許の取得が求められています。そのためには、義務教育段階での基礎学力を確実に身に付けていることが望まれます。
- ・ 現行の学習指導要領では、いわゆる「習得と活用」や「言語活動の充実」、「学習習慣の確立」等、指導方法や配慮事項が明示され、学力の育成が強調されています。また、高等学校学習指導要領総則においては、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会、いわゆる「学び直し」を行うことが盛り込まれています。

### ■ 基礎学力定着に向けて： キーワードは、「みんなで、くりかえし、どの子にも」

学力に関するテストは本来、国や県、学校において、子どもがどんなところでつまづいているのか、どんなことができるようになったのかを、児童生徒一人ひとりについて明らかにし、日々の指導の改善に生かすために行うものです。各学校におかれては、今回の調査を契機に「みんなで、くりかえし、どの子にも」を合言葉として指導の改善に取り組んでいただきたいと思います。

#### □ 「みんなで」

- ・ 調査結果について先生方「みんなで」共通理解し、全校体制で取り組んでいくことが求められます。既に行っていたらいいとは思いますが、まずは、先生方自身で問題を解いてみられてはどうでしょうか。【小学校において正答率の低かった問題の一部について、別紙で添付しました。】
- ・ 今回の調査は児童生徒が身に付けるべき学力の一部分ですが、学力や学習・生活習慣等の課題について、すべての学年、そして、教育活動全体を通して取り組むことが望まれます。学校の教職員、誰もが子どもたちの「学力担任」である自覚をもって指導にあたりたいものです。
- ・ 児童生徒同士も、「みんなで」高め合い、「ともに」伸びていくという意識を一層育みたいものです。また、保護者や教育関係者の方々に対して丁寧な説明を行い、教育活動や指導の改善について理解・協力をいただき、家庭や地域とともに、「みんなで」連携して取り組むことで効果が促進されると思われます。

#### □ 「くりかえし」

- ・ 「知識・技能」の定着を図ることやそれらを活用すること、生活習慣は、粘り強く「くりかえし」指導・支援することで身に付きます。就学前における教育も含め、小学校6年間、中学校3年間を見通した系統的な取組が必要です。幼小中高の校種間においても連携を強め、「くりかえし」取り組むことができるよう工夫が求められます。
- ・ 学校で学んだことを家庭でも「くりかえし」学習し、それを学校での学習に再び生かしていくなど、学校と家庭がリンクした学習の在り方についても工夫したいものです。



#### □ 「どの子にも」

- ・ 子どもの状況や特性に配慮した上で、個に応じたきめ細かな指導を「どの子にも」行うことが求められます。
- ・ 特に、「課題の見られた児童生徒」への対応として、より一層の少人数指導の工夫改善や必要に応じ個別指導を図ることで学力の定着を目指します。
- ・ 一方、「習熟を図ることが児童生徒の学習意欲を損なわないようにする」といったことにも配慮しながら指導することも必要かと思われます。本年度、岐阜教育事務所では「学び続ける子」を目指し、子どもたちに「学ぶ実感」を育む授業づくりを進めています。

# 全国学力・学習状況調査 結果分析 (国語)

岐阜教育事務所

## Q1 実際に問題を解いてみましょう。

【国語 A 問題】 3

**3** 次の「文章の一部」は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

一 【文章の一部】の中には、いくつかの文があります。それぞれの文のはじめの5文字を丸で囲みましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

A 文は( )つあります。それぞれのはじめの5文字は、  
  
です。

**Q2 児童の実態を把握しましょう。**

■ A 問題の正答率と無解答率  
岐阜県：( ) % ・ ( ) %  
貴 校：( ) % ・ ( ) %

■ B 問題の正答率と無解答率  
岐阜県：( ) % ・ ( ) %  
貴 校：( ) % ・ ( ) %

【国語 B 問題】 2

【下の各文の一部】を一人が分けて書いた内容を一覧に構成したものを、ここに示します。

<b>1</b> 打ち上げ花火の歴史	<b>2</b> 打ち上げ花火の種類	<b>3</b> 花火師の小野さんの声	<b>4</b> 題名この
【1613】(慶長18)年、中国人が打ち上げ花火を、試行錯誤の末に発明した。	打ち上げ花火は、「爆竹」と「花火」とに分けられる。「爆竹」は、竹筒の両端に火薬を詰めて打ち上げられる。「爆竹」は、大きく「竹筒」に分類される。「爆竹」は、竹筒の両端に火薬を詰めて打ち上げられる。打ち上げられる。「爆竹」は、竹筒の両端に火薬を詰めて打ち上げられる。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。	打ち上げ花火は、およそ400年の歴史をもった、日本の伝統的な文化の一つです。
【1712】(享保18)年、幕府が打ち上げ花火の打ち上げ場所を、打ち上げ場所と定められた。	「爆竹」は、竹筒の両端に火薬を詰めて打ち上げられる。「爆竹」は、竹筒の両端に火薬を詰めて打ち上げられる。「爆竹」は、竹筒の両端に火薬を詰めて打ち上げられる。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。
【1879】(明治12)年、打ち上げ花火の打ち上げ場所を、打ち上げ場所と定められた。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。
【1910】(明治43)年、打ち上げ花火の打ち上げ場所を、打ち上げ場所と定められた。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。	花火師の小野さんは、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。

【編集会議での西村さんの意見】

見出しの「**A** いろいろな苦勞をこえて」に合わせて、【ずかんの一部】の中から、小野さんの苦勞が具体的に書かれている文を引用したほうが良いと思うわ。

【ずかんの一部】

～花火師の小野さんの声～

みなさんは、花火師が花火を打ち上げるまでにどのような苦勞があるか知っていますか。わたしは、花火師のわざを身に付けるために、約10年もの期間をかけて修行をし、一人前になることができました。そのわざを生かし、安全に花火を打ち上げるために、毎回、準備から後片付けまで、いっときも気をぬくことなく取り組んできました。多くのみなさんに喜んでもらうために、わたしたち花火師はさまざまなわざをみがき、細かな心がけをしていることをぜひ知っておいてほしいと思います。

～(内容が続く)～

二 今村さんたちは、「**B** 花火師の小野さんの声」の「**A** いろいろな苦勞をこえて」の「**B**」について、「編集会議での西村さんの意見」を受け、そこに書く内容を考えました。そこで、「ずかんの一部」の内容を引用して書くことにしました。引用する二つの文を探し、それぞれの文のはじめの5文字を書きましよう。なお、「、」も字数にふくみます。

A 一つ目は、  
二つ目は、  
  
です。

結果分析からみえる、系統的な指導の重要性～学校ぐるみで指導改善を！

■ A問題 [3] ■

趣旨：文の定義を理解することができるかどうかをみる。

正答…「放送委員会」、「ぼくは、委」「新しく委員」

正答率（と無解答率）…岐阜県：33.7%（21.9%）

【学習指導要領における領域・内容】※関連する指導事項を含む  
〔第1学年及び第2学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項  
(1)イ 言葉の特徴やきまりに関する事項  
(ウ)句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。  
(以下、解説文より抜粋)句点については、入門期から、文を書く際には、文末に必ず句点を打つように指導し、文意識を育てていくようにする。読点については、文頭の接続詞などの後、主語の後、従属節の後、並列する語の後など必要な箇所につくことを理解させるようにする。  
(カ)文の中における主語と述語との関係に注意すること。

教科書では…

・第1学年上 P22(光村図書)「ふたりでおはなし」

さるがいる。▼ぶんのおわりには、まる（。）をつけます。

とあります。

「文というのは『～は、です。(まる)』までが『文』ですよ。ちゃんと書いていますか。」  
「『一文目』と『三文目』に着目しましょう。その中で、どんな言葉が光って見えますか。」  
「こんな働きかけができるといいですね。」

■ B問題 [2] ■

趣旨：目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くことができるかどうかをみる。

正答…「わたしは、」、「そのわざを」

正答率（と無解答率）…岐阜県：23.3%（14.6%）

【学習指導要領における領域・内容】※関連する指導事項を含む  
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと  
エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。  
オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。  
カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。  
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと  
エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。  
(以下、解説文より抜粋)「引用」とは、本や文章の一節や文、語句などを引いてくることである。かぎ（「」）でくくることなど、引用の仕方を指導するとともに、引用したことについて、引用者が自分の思いや考えを書くことなども指導する必要がある。

教科書では…

・第4学年下 P44(光村図書)単元名：物語を読んで、感想文を書こう 教材名：「三つのお願い」

リード文：どんな人物が、どんなことをし、結末はどうなるのでしょうか。

それについて考えたことを、どう書けばいいでしょう。

▼次のような組み立てで書きましょう。  
(中) 感じたことや考えたことを書く  
最も引き付けられたところ、気になったところを引用したり短くまとめたりしながら、どう感じたり考えたりしたかを詳しく書く。

とあります。

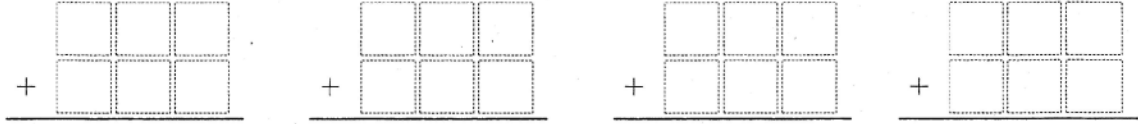
「『文』は、どこからどこまでを指すのですか。」「『引用』の仕方は正確ですか。」  
「仲間の書いた文章には、伝えたいことの中心がよくわかる工夫があるはずですよ。」  
「こんな場が準備されているといいですね。」

様々な学習場面で、論理的に「思考・判断・表現」する、言語活動の充実を。  
～言語を用いて、「正確に理解し、適切に表現する力」を育む場を大切に！

【算数 A 問題】

1 (2)  $0.75 + 0.9$  正答率…岐阜県：63.7% 貴校：( )%

Q1 誤答例をかいてみましょう。



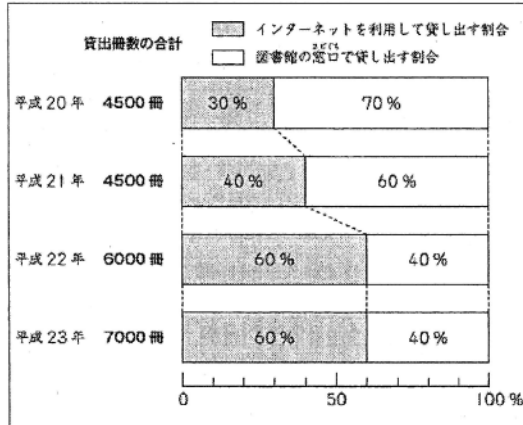
Q2 どこでつまづいているのか考えてみましょう。

【算数 B 問題】

5 (2) 正答率…岐阜県：42.7% (無解答率 % ) 貴校： % (無解答率 % )

(2) 次に、図書館の人が、最近ではインターネットを利用して本を貸し出す割合が増えていることを教えてください。  
そして、次の帯グラフを見せてくれました。帯グラフは、平成 20 年から平成 23 年までの貸出冊数の合計とインターネットを利用した割合を表しています。

貸出冊数の合計とインターネットを利用した割合



かざやさんたちは、実際にインターネットの貸出冊数が増えているかどうかを調べます。

インターネットの貸出冊数は、次の式で求められます。

$$\text{貸出冊数の合計} \times \text{インターネットを利用した割合} = \text{インターネットの貸出冊数}$$

この式を使って、かざやさんとたまきさんは、平成 20 年と平成 21 年を比べました。



かざやさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。  
 $4500 \times 0.3 = 1350$ なので平成 20 年は1350冊です。  
 $4500 \times 0.4 = 1800$ なので平成 21 年は1800冊です。  
だから、平成 21 年のほうが増えています。



たまきさんの考え

30%と40%を小数で表すと0.3と0.4になります。  
 $4500 \times 0.3 = 1350$ と  $4500 \times 0.4 = 1800$ を比べると、もとにする量は同じで、割合は大きくなっています。  
だから、平成 21 年のほうが増えています。

平成 22 年と平成 23 年を比べると、インターネットの貸出冊数は増えていますか。下の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、2 人の考えのどちらか一方をもとにして、言葉と数や式を使って書きましょう。

- 1 平成 22 年より平成 23 年のほうが増えている。
- 2 平成 22 年より平成 23 年のほうが減っている。
- 3 平成 22 年と平成 23 年は変わらない。

Q1 実際に問題を解いてみましょう。

Q2 正答率が低い理由を考えてみましょう。

## 誤答分析から見てくるつまずきと、これからの指導改善

### <正答と誤答の割合>

A	B	C	D	E	F
$\begin{array}{r} 0.75 \\ + 0.9 \\ \hline 1.65 \end{array}$	$\begin{array}{r} 0.75 \\ + 0.9 \\ \hline 0.165 \end{array}$	$\begin{array}{r} 0.75 \\ + 0.9 \\ \hline 0.84 \end{array}$	$\begin{array}{r} 0.75 \\ + 0.9 \\ \hline 8.4 \end{array}$	$\begin{array}{r} 0.75 \\ + 0.9 \\ \hline 84 \end{array}$	$\begin{array}{r} 0.75 \\ + 0.9 \\ \hline 0.084 \end{array}$
63.7%	1.9%	16.6%		10.5%	

- ・ 4年生における平成24年度岐阜県における児童生徒の学習状況調査  
(6.8-0.42) 正答率…80.1%
- ・ 5年生で小数の乗除の学習における、加減の筆算との比較等における繰り返し指導
- ・ 筆算は形式的な処理形式であるが、計算原理とのつながりを大切にしたい指導

数と計算領域では、筆算を学習する時間があります。その時間の終末場面では、右のような虫食い算やまちがい見つけなどを効果的に位置付けてみましょう。虫食い算は、筆算の手順を逆思考することになり、知識をより確かなものになります。まちがい見つけでは、どこが間違っているかだけでなく、「なぜ、そうすることができないのか」まで考えたり、説明をさせたりすることにより、論理的な思考が深まります。評価規準と照らし合わせて、児童にどのような実感をもたせるのかを思い描き、問題を工夫してみましょう。

#### 虫食い算

$$\begin{array}{r} 4.\square9 \\ + \square.84 \\ \hline 7.23 \end{array}$$

#### まちがい見つけ

$$\begin{array}{r} 0.75 \\ + 0.9 \\ \hline 0.84 \end{array}$$

根拠を明確にし、言葉と数や式を用いて説明できるには、

「何を」「どこまで」「どのように」説明するのかを指導しきる

### <正答の条件>

番号を1と解答し、次のA①、A②の全て、またはB①、B②、B③の全てを書いている。

A 基準量、割合から比較量を計算して、比較量が大きくなっていることを書いている。

①平成22年、平成23年のインターネットを利用した貸出冊数を求める式  
②平成22年、平成23年のインターネットを利用した貸出冊数

(正答例)  
60%を小数で表すと0.6になります。  
 $6000 \times 0.6 = 3600$ なので平成22年は3600冊  
 $7000 \times 0.6 = 4200$ なので平成23年は4200冊  
だから平成23年のほうが増えています。

B 基準量が大きくなっていて、割合が変わらないことを根拠に比較量が大きくなっていることを書いている。

①平成22年、平成23年インターネットを利用した貸出冊数を求める式  
②割合が同じであることを示す言葉  
③基準量が大きくなっていてことを示す言葉

(正答例)  
60%を小数で表すと0.6になります。  
 $6000 \times 0.6$ と $7000 \times 0.6$ を比べると、割合は同じでも、もとにする量は大きくなっています。だから平成23年のほうが増えています。

### <正答と誤答の割合>

A	B	C	D	E	F	G	H	I
1と解答						3と解答	2と解答	無解答
A① A②	B①B② B③	A②	B②B③	B③	無解答			
29.8%	3.8%	1.7%	7.4%	4.7%	17.8%	20.0%	5.7%	8.0%

- ・ 児童の発言をよく聞き、論理が正しくないことや根拠が不十分な時の問い返し  
例)「割合だけの比較で判断してよいですか?」「かけ算にしてよい根拠は?」
- ・ 根拠を明確にして説明できたときの数学的な値打ちの価値付け  
例)「割合が等しいことに着目して考えていることが素晴らしいですね。だから、計算をしなくても、もとにする量で比較すればよいですね。」